
アジサイの国のアリス

クリイプ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アジサイの国のアリス

【Nコード】

N3879V

【作者名】

クリイプ

【あらすじ】

すぐにシャツがぐっしりと濡れ、髪の毛がくるくるとカールしてしまうアジサイの国を出たアリスがたどり着いたのは、ヒマワリの国でした。 ※他サイトとの多重投稿になります。よろしく願います。

アジサイの国はいつも雨が降り、じとじとと蒸し暑い国でした。

「もうこんな国、イヤになっちゃう」

アジサイの国では青や赤、白やうす紫といったそれは綺麗なアジサイが一面に咲きましたが、アリスはアジサイの国のことが好きではありませんでした。

湿気のせいで自慢の髪の毛はくるとカールしてしまいますし、暑くて何度もシャツを替えないといけないからです。

「もうこんな国、出て行ってやるんだから」

大好物の白アジサイのソーテーや、色とりどりの花びらを浮かべたアジサイ風呂は名残惜しかったですが、アリスは旅に出ることにしました。

他にもっと、住みやすくて綺麗な国があると思ったのです。

「バイバイ、元気でね」

珍しくよく晴れた日のことでした。

アリスはペットのカタツムリに別れを告げ、お腹がすいた時のためにアジサイの種をポケット一杯に詰め込んで出かけました。

最初にたどり着いたのはヒマワリの国でした。

ヒマワリの国はとても暑いところでした。

でもアジサイの国のように蒸し暑くはなく、アリスはすぐにヒマワリの国を気に入りました。

そこら中に咲いている、大きな黄色いヒマワリの花が好きになったからでした。

「でもどれも同じ色で飽きちゃうわね」

ヒマワリの天ぷらもヒマワリ風呂もとても気に入りましたが、アリスはまた旅に出ることにしました。

二番目にたどり着いたのはコスモスの国でした。

コスモスの国はとても涼しく、気持ちのよいところでした。

辺りに咲き乱れるコスモスは赤、ピンク、白など色とりどりでヒマワリのように一色でなく、とても可愛いものでした。

「でも少し地味すぎるわね」

コスモスのあえ物もコスモス風呂もとても気に入りましたが、アリスはまた旅に出ることにしました。

三番目にたどり着いた国は、ラフレシア・アーノルディの国でした。

「なによこの国は！」

アリスが叫ぶのも無理はありません。

ラフレシア・アーノルディの国はアジサイの国の何倍も蒸し暑く、ひどい臭いのする国だったのです。

一メートルを超える巨大なラフレシア・アーノルディの花は気味が悪く、まるで真っ赤なきのこのようでした。

「こんな国には一秒だって住めないわ」

どこで道を間違えたのか、とても寒い国に着くと思っていたアリスは逃げるようにラフレシア・アーノルディの国を飛び出しました。

ラフレシア・アーノルディの刺身も食わず、ラフレシア・アーノルディ風呂にも入らないままでした。

四番目にたどり着いたのは、枯れ木ばかりしかない国でした。

その国はとても暖かい場所で、たくさん旅をして疲れていたアリスはうとうとと眠ってしまいました。

「わ！」

やがて目を覚ましたアリスは驚きました。

枯れ木だったはずの木々は、目を見張るほどたくさんの綺麗な薄桃色の花を咲かせていたのです。

アリスが眠っていたのは、サクラの国でした。

アリスはサクラの国でサクラモチを食べ、サクラ風呂に入りました。

お花見をして、お酒を飲んだアリスもサクラ色になりました。

アリスはサクラの国をとても気に入りましたが、やっぱり旅を続けることにしました。

いつかサクラが散ってしまう時のことを考えて、寂しくなってしまうからでした。

最後にアリスがたどり着いたのは、一輪の花も咲いてない国でした。

その国はとても蒸し暑く、長いこと誰も手入れをしていないので、雑草が伸び放題になっていました。

「なによ、仕方ないわね……」

アリスはそう呟いて、雑草を抜き始めました。

すぐにアリスの額には玉の汗が浮かび、シャツはぐっしりと濡れ、自慢の髪の毛はくるとカールしてしまいました。

アリスが雑草を抜き始めてどのくらい経ったでしょうか。

全身を汗でびっしりと濡らしたアリスは泣き始めてしまいました。

青や赤、白やうす紫といった色とりどりのアジサイの花や、大好きだった白アジサイのソテー、アジサイ風呂やペットのカタツムリのこと、とても懐かしく感じられたからでした。

雑草をすべて抜き終えたアリスは、そこにポケット一杯に入っていたアジサイの種を植えました。

最初に花を咲かせるのは何色のアジサイだろうか。そんなことを考えながら、疲れたアリスは眠りにつくのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3879v/>

アジサイの国のアリス

2011年10月9日13時26分発行